

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



芳井分教会

(平成16年、現在地に移転。9月16日撮影)

立教179年
9月号



次代を担う青年会員

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、8月15、16日の両日「あらしきとうりよう入門塾」を開催し、17人が参加した(うち高校生4人)。これは高校生層を対象に毎年開催されているもので、今年も親里管内や地元の高校生が参加した。

あらしきとうりよう
入門塾 開催
 8月15・16日 大教会
青年会

いて聴かせて頂いた。その後は、「ワードバスケット」という言葉遊びのゲームで親睦を深めた。翌日は、ひのきしんに汗を流した後、笠岡分会委員長より、青年会活動についての話があった。最後は、全員で水鉄砲対決を楽しんだ。

よふぼく勉強会開催
テーマは「嫁・姑について」
 8月月次祭後
育成部

育成部(吉岡壽部長)では8月21日、大教会8月月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催。今回のテーマは「嫁・姑について」。



懇切で楽しい勉強会

自身が嫁にきた時の姑との思い出話から、いつもおつくし一条に通られた姑の話しをされた。またクワイ料理について話しが及び、「慈姑」と書いて「姑を慈しむ」と読めることから、様々な悟り方を話され楽しい講習会となった。

「テッチャン
シアター」開催
 8月月次祭後
少年会

8月21日、大教会祭典後に、テッチ



○×クイズに答える少年会員

自身が行われ、夏休み中に親子で参拝していた少年会員らが参加した。

この日は、○×クイズが実施され、子どもおちばがえりや、オリンピックク、動物に関する問題が出題され、子供達は楽しいひと時を過ごした。

クイズ後には、「朝起き、正直、働き」という合言葉が伝えられ、その合言葉と引き換えに、かき氷が振る舞われた。

立教179年
婦人会本部巡回

婦人会

8月22日、婦人会笠岡支部(上原きよ代支部長)では、大教会において、婦人会本部より、岸部支部、春野たみよ先生を迎え、巡回を受けさせて頂きました。

「年祭のこの節目を新たなスタートとし、年祭活動を止めずに、次へ向かっての歩みを始め動いて欲しい。また、育てに関わる私達が、日々通り方を教えるに正しひながたをたどり、陽気ぐら



百万会員を目指して

しの台となり、100万会員を目指してにをいがけ、おたすけにはげみ、婦人会長様のお心にそって素直に通らして頂く事がたいせつ。会員さん方一人一人が私もと思つて頂く事、動いて頂く事が、委員部長のつとめ」など、時句のあり方について、聞かせて頂きました。当日は、委員部長、代理、委員を含め122人の参加で、13時より開講、お話しを頂いた後、ねりあいを持たせて頂き、支部長の決意とともに、15時半ごろ閉会いたしました。そのうち常任委員、ねりあい司会が巡回員と懇談を行いました。(婦人会記録係 今川直子)



熱心に受講

第19回野外錬成会
兼わかぎ錬成会
開催される
少年会

少年会笠岡恒例のサマーキャンプが、今年は、テッチャンと遊ぼうとして実施している、わかぎ(中学生)錬成会を兼ねて、少年会員17人(内わかぎ2人)育成会員10人(十お手伝い数人)の参加のもと、笠岡大教会を会場に、8月22日から24日にかけて2泊3日の日程で開催されました。このキャンプは、火・水・風の親神様の御守護を肌感じるとともに、たすけあいを実践し、そこに喜びと感謝を体得する、少年会員の育成を目的に、実施される行事です。

今年は連日35度を越える猛暑の中、22日12時30分開講式後、婦人会行事の関係で、即刻プールへ。猛暑には心地よい水遊びでした。帰るなり入村式、オリエンテーション、テント設営と忙しくこなし、夕食はバーベキューに舌鼓を打ちました。そして自然を感じながらの外で立つてのおつとめ。その後は、メインイベント、キャンプファイ

ヤーを楽しみ初日を終了、テントで就寝。慣れないテント、寝られようはずもなく、遅くまで起きている子も。

2日目、班ごとに飯ごう炊さん。わかぎをリーダーにご飯を炊く人、みそ汁の準備をする人、サラダを作る人、食器を準備する人、全員が手分けし、協力しての朝食作り。自分たちで作った朝食、ご飯が少々お焦げでも、みそ汁が少々からくても、それはそれはおいしい食事です。続いて今日もプール(スタッフ不足のため、予定変更)。この間、本部班は昼食のカレー作り。帰会后、昼食のカレーを食べながら相談、



2日目夕食のクッキングコンテスト



料理コンテストの食事準備

夕食の料理コンテスト。ここでもわがぎが大活躍、班員の意見をまとめ、メニュー決定。昼食後、買い出し。班毎にカートを押し、予算は3000円、必要食材を計算しながらかごの中に、実に楽しいひと時でした。いよいよ料理コンテストの食事作り。慣れない薪

での煮炊き、むずかしいながらも協力しながら作成。冷麺、スムージー、オムハンバーグ、焼きマシユマロスイーツ、焼き餃子、チャーハン等々。目にも鮮やか、食べておいしい、そして工夫をこらした料理の数々。出品後、プレゼンテーション、工夫した点、難しかった点等を各班毎に発表。採点、どの班も甲乙つけがたい。実にすばらしい、おいしい夕食でした。夜はきもだめし、わかぎもおぼけ役に。

泣く子、大声で叫ぶ子、全員で歌を歌う班、いろいろだが、蚊にさされ、真つ暗な中、一人寂しく待つおぼけ役がある意味一番恐くて大変かも。

3日目、昨日同様、朝食は班毎の飯ごう炊さん。クラフト、水鉄砲作り、そして全身びしょびしょになりながら水鉄砲遊び。最後に全員で手分けして撤収。みんなで本部班支給のサンドイッチを食べ、閉校式をし、午後2時無事終了しました。

2泊3日、暑い中でしたが、病気がけがなく、御守護の中に無事終わらせていただきました。ありがとうございます。又協力下さった方々、たいへんお世話になりました。

(少年会副団長 掛谷宣和)



委員長を囲み記念写真

青年会笠岡分会では、8月28日から9月4日までを、全分会布教推進週間とし、教会、ブロック毎に各地で布教活動を展開した。その中、布教キヤラバン隊は、笠岡、福山、府中市内のほかに、米子市、松江市、広島市に赴き

全分会布教推進週間 開催

8月28日～9月4日

青年会



猛暑の中を神名流し

活動を行った。8月31日、9月1日と活動した鳥取、島根方面では、島根で活発な布教活動を展開している布教グループ「勇み塾」のメンバーと共に実働。系統を超えて、同じあらしとよりよう同士、神名流し、路傍講演、リーフレット配分など熱の入ったにいがけを行った。その他、布教推進週間中、各地で家族、教会ぐるみで精力的に活動が展開された。

毛布襟付けひのきしん

婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ枝支部長)では、9月3、4日の両日、詰所宿泊者・大教会信者室用の毛布襟付けひのきしんを大教会講堂を中心に各部屋で行った。台風12号の襲来を控える中にも拘わらず、多数の参加者が勇んでひのきしんに励んだ。今回は毛布の縁が痛んでいことから襟付けに加えて毛布の縁縫いも行った。

3日の午前10時から始まり、午後からは婦人会委員長が、例会、十二下



勇んでひのきしん

りのてをどりを終えてひのきしんに合流し、4日は午前9時半から午後まで行われた。参加者は3日40人、4日81人、少年会員8人。詰所330枚、大教会50枚と清潔な襟が付けられた。



修養科終了生の声

修養科を通して



木津和分教会 丸山隼人
最初、修養科生が自分1人と聞いた時は、非常に驚いたのと不安になった

のを今でも覚えております。でも教養掛の先生や詰所の先生方、皆様のお陰で何とか3ヶ月元気に通らせて頂けました。本当にありがとうございます。

修養科生活を通して一番強く感じた事は、自分がどれだけ日々を結構に通らせて頂けているのかという事です。クラスの中には、身上の悩み、事情で苦しんでいる方が多くいらつしやいました。やむを得ず、地元へ帰る方もおられました。その方々を思うと、自分がどれ程有難いかしみじみと感じました。朝起きて元気にひのきしん、歩いて修養科へ行き、天理教の勉強をさせて頂ける。これは決して当たり前では無いんだと思いました。これも全て、親神様、先祖の絶え間ないお働き、又、上級の会長様や親々の徳なんだと感じさせて貰いました。修養科で、「有難いの反対の言葉は当たり前」とお聞かせ頂きました。それを聞いた時に、ハッと思いました。普段有難いと一度思っても、何日か過ぎると、有り難いから当たり前と思う自分に気付きました。これからは有り難いという気持ちをお忘れずに通る、御恩の分かる人へとなりたいです。

修養科では2番組係の御命を頂き、

自分の修養と共に人様の御世話をさせて貰いました。毎日誰かにおさづけを取り次ぐ事を心定めし、休憩時間には必ずクラスの身上者へおさづけさせて頂きました。又進んで神殿へ足を運び人様のたすかりを願って、おつとめ、回廊ひのきしん、トイレ掃除をしました。自分の悩みを一度忘れ、周りの方々の為に必死でお祈りをしました。するといつの間にか自分の悩みはすっきり消え、身上者も元気になる事が多々ありました。「人救いたら我が身救かる」という御教えを体と心で経験しました。

3ヶ月のおちばでの伏せ込みで、たくさんのお話を学び、たくさんのお話を考えました。全て自分の為の修養科だと今になって感じます。3ヶ月通った事をこれからの人生で生かしていきたいです。又、教会の次男として、兄を支え、弟を引っ張っていける様日々通らせて頂きます。

最後に3ヶ月間厳しい中にも温かい親心で接して下さった森本先生、吉岡先生、三阪先生、岡田先生本当にありがとうございます。ありがとうございました。ありがとうございます。い尽くしても言い切れない程感謝しております。

こどもおちばがえり 詰所内クイズ当選者

こどもおちばがえり期間中、笠岡詰所で行なわれた「クイズ」全問正解者の中から、厳正な抽選の結果、左記15名の少年会員に図書券がプレゼントされました。

中学生

笠岡	上原真美
福山	前迫花梨
ひろさと	浅野まゆみ
海松ヶ岡	森本しほ
福輝	西村和真

小学高学年

福芦	さとうほのか
高見島	山下芹奈
出雲	常松勇太
大江橋	垣内聡太朗
甲井	宗実 楓

小学低学年

笠岡	大友神威
芦加茂	森野まひろ
亀田山	足立結花
神村	ふじ谷のあ
上備	田渕義朗

(下の写真提供:詰所・上原喜三氏)



こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていますので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽8月28日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

たつぷりと冷たい水を鉢にはり
豆腐浮かべて暑き日の夕餉ゆうげ

・福満◎ 福島悦子さん

筆談で日本を変えると夢語る
要約筆記研究大会

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

気がついて物置の戸を閉めに出る
真夜中の空意外と明るい

▽9月1日付「時報俳壇」

・海松ヶ岡◎ 池田広子さん

背伸びして誰を待つか月見草

▼表紙写真

(芳井分教会提供)

立教百七十九年 八月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	役割			地方	講話	祭主		扨者				
									区分	坐り勤	前半			後半	指図方	賛者	指図方	賛者		
佐藤香苗	今川佐智子	虫明好美	中村道徳	笹尾正治	森本忠平	中村邦義	中村剛	中島誠治	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	岡本久善	上原明勇	大教会長様	中村義太郎	上原繁道	上原志郎	岡崎真一	大教会長様	上原浩
笹尾一美	森本富美子	武内正美	高木昭祥	横山逸郎	田林久嗣	三島渉	山野弘実	浅野明教	門脇加津	谷内美知子	上原順子	上原浩	杉原博之	門脇元教	山田敏教	吉岡伸自	吉岡誠一	浅野明教	上原繁次	吉岡壽
吉岡八恵	横山小智栄	三島照美	赤木素志	渡邊隆夫	上原繁次	内海史郎	虫明立生	佐藤真孝	岡崎和美	中村初美	岡崎豊子	今川昌彦	岡崎真一	田中隆之	武内清明	吉岡誠一郎	佐藤道孝	浅野明教	上原繁次	吉岡壽
													上原繁道	秋季大祭講話					島村廣義先生	

大教会だより

◎第九〇二期修養科

自 立教179年6月1日
至 立教179年8月27日

*教養掛

三ヶ月間 森本忠善

(大教会准役員・海松ヶ岡分教会長)

一ヶ月目 吉岡貞彦

(菅田川分教会長)

二ヶ月目 三阪泰人

(福岩分教会長)

三ヶ月目 岡田誠

(備中分教会長)

*修了者

木津和 丸山隼人

◎教人資格講習会修了者

後期 立教179年8月10日終講

稲倉 北川和成

前期 立教179年8月31日終講

高屋 秀平 元一

◎教会長資格検定講習会修了者

立教179年9月19日終講

神村 下田治輝

◎第九〇〇期修養科一期講師

自 立教179年4月1日
至 立教179年6月27日
高屋 武内 清明

訃報

武内美智恵姉

大教会おつとめ奉仕人
7月31日出直されました。
享年 91才



「どうしたもんじやるーの〜」と桜の木を見上げて数ヶ月、今年の春頃のニュースで、昨今の異常気象により突風が起こりお寺の本堂に大木が倒れて大変なことになった、と聞き思い切つてやらかしました。

私方の教会にも神殿のすぐ脇に、20年程前に植えた桜の木がグングン伸びて、神殿の大屋根の棟よりも高くなり台風が接近した時など「大丈夫かいなあ〜」とビビるほど！そこで6月の中旬頃のある日、3メートル21センチ

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には子供可愛い親心から一列子供心の理にお体をお貸し下さり 天然自然のお働きを通して身体を自由をご守護下さっております 連日テレビでのリオオリンピックや高校野球で活躍する選手の姿を見て感動すると共に 親神様の御守護の有難さに御礼申し上げますにはおれませぬ 誠に有難うございませぬ 私共は日々喜びと感謝の心のままに御恩報じを思い念じて 陽気ぐらし建設のよふぼくとの自覚の元 朝夕に御礼申し上げます にをいがけおたすけにとたすけ一条の上にとめ励ませて頂いております その中にも今日の吉日は此の笠岡の八月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同たすけ心慶び心も一人に 明るく陽気に勇んで坐りつとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに残暑厳しき中も厭わず寄り集いました道の子供達が同じ思いに伏し拝み 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げますを御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さてオリンピック競技場内では安心して競技が行われておりますが 一歩競技場を出ますと安心して歩けないというのは決してリオだけではありません 一番安全と言われている日本でさえそうで無くなりつつある現代 一人でも多くの人が一列兄弟の理に目覚め助け合いの心を持てるよう 来月にはをいがけ強調の月であり月末にはをいがけデーがありますので いつにも増してにをいがけおたすけに邁進させて頂く所存でございます

又教祖百三十年祭子供おちば帰りに笠岡から千三百三十三名が帰参をさせて頂きました 大きな事故怪我もなく結構にお連れ通り頂き誠に有難うございました 続いて二十二日から二十四日とサマーキャンプをさせて頂きますので宜しくお願いいたします

更には又同じく二十二日には婦人会が本部巡回を受けさせて頂き会員の増員を目指し力を注いで行く所存でございます そして 青年会が二十八日から九月四日までの全分会布教推進週間を通してにをいがけに邁進させて頂き これからの布教活動をより活発化してまいる所存でございます

何卒親神様には 皆のにをいがけに掛ける勇み心の真実をお受け取り下さいまして たすけ一条の上願う心の誠の理に自由のご守護を賜り 親神様のご守護教祖のお働きをつぶさに感じ御恩報じを願う人が 弥増して 人皆助け合う陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

の三脚脚立を桜の木に括り付け天場へ立って、そこからロープをまるでカーブイ? のように出来るだけ高い所の枝に括り付け、そのロープを下に投げ女房に神殿に倒れ掛からないように反対側に力一杯引つ張って貰い、チェンソーで切ると言う事に挑戦。悪戦苦闘の末4本の大きな枝を切り境内地がいつぱいになる程、最後に切り口の養生に上がった最後の最後、少し気が緩んで脚立を括り付けないまま上がったところ、さあ降りようとした時脚立が倒れだし「やばい」と思うものの為す術なし、とっさに近くに伸びていた枝を掴んだものの。ミシミシと音がして枝ごと落下! 慌てて女房が駆け寄り「お父さん大丈夫?」と言う声、「痛たあくうん大丈夫!」しばらく動けないでいると、隣のおばさんが気づいて走って来て「大丈夫な?」続いて「へーじゃけえいおうで、桜切る馬鹿言うて」でした。「桜切る馬鹿・梅切らぬ馬鹿」ってそういう意味????? 落ちた時とっさに掴んだ枝が、今は亡き役員の方で庭の剪定を我が事のように勤めて下さった方が「会長さん、危ない」と手を差し伸べて下さったように思います。ここ数年、本当にかたはず、かたはず、のところで神様に・そして御霊様方に守られてるな、と感じる今日この頃です。

ちなみに下で木を引つ張ってくれた女房は木の反動に振り回されしばらく体中が痛い痛い、もう二度とごめんでは! と……

以上 桜を切った馬鹿より……でした。(K・T)